

海外における

コンテンツ収集とリポジトリ運 営の取り組み

千葉大学附属図書館 鈴木宏子
2006/7/26-28@NII, 8/30-9/1@NUL

海外の状況を知るために

2005～2006千葉大学の活動

I. 海外へいく

- I. アメリカ、カナダ、イギリス、ポルトガル、シンガポール

II. 海外からよぶ

- I. 日米大学図書館オープンフォーラム (2005.11)
- II. 機関リポジトリワークショップ(2006.5)

何のために？

リポジトリ運営のため

必要な3つのことを知るために

- どうやってコンテンツを集めるか
- どうやって効果的に見せるか
- どうやって効果的に発信するか

I . 海外視察調査

■ アメリカ

- University of Rochester(2005.12)
- University of Maryland(2006.3)
- George Mason University(2006.3)
- Ohio State University(2006.3)

■ カナダ

- University of Toronto(2005.12)

■ イギリス

- University of Southampton(2006.2)

■ ポルトガル

- Universidade do Minho(2006.2)

■ シンガポール

- National University of Singapore(2006.2)
- Nanyang Technological University(2006.2)

トロント大学 (Canada) ロチェスター大学 (US)



トロント大学遠景



■ 目的

- コンテンツ収集のための工夫は？
- 可視性・発進力の強化のために何が必要？

コンテンツ収集

(1) トロント大学



- コンテンツ内容 4802件 (2005.12)
 - グリーン論文
 - 学内出版物アーカイブ
- 収集のための工夫
 - Self Archiving は難しい
 - 学生をトレーニング
 - 教員用説明に「Open Access」という言葉は使わない
 - 「Visibility」「Library spaceの利用」「保存」と言って説明する。

コンテンツ収集

(2) ロチェスター大学



- コンテンツ内容 1971件(2005.12)
 - グリーン論文
 - 学内ユニーク資料(楽譜など)収集
- 収集のための工夫
 - 教員説明はターゲットを絞ってロコミ
 - 教員用説明に「OA」「IR」という言葉は使わない
 - 「Archive」「Materials」を使う
 - Self Archiveは難しい
 - 秘書をトレーニング
 - 著者原稿が無い

可視性・発信力強化

(1) トロント大学



■ Scirus との連携

- Scirus+リポジトリ連携の世界初例
- 検索エンジンの高度化と関連リンクの付加
 - 全文検索
 - Advance Search → Abstracts
 - 関連キーワード表示

■ リンクリゾルバ(SFX)、統合検索(ENCompass)の活用

- より可視性を高め、One Stopの便利さを提供

可視性・発信力強化 (2) ロチェスター大学



- Web Citation Index との連携
- リンクリゾルバ(SFX)、統合検索(ENCompass)の活用
 - より可視性を高め、One Stopの便利さを提供
- 独自ツール開発
 - Researcher's tool =Dspace 追加機能
 - Dspace内のコンテンツを選んで業績リスト化をサポート



Researcher's Tool
を開発した
Nathan Sarr 氏

トロント&ロチェスター わかったこと

■ コンテンツ収集のために

- 教員との連絡を密に
- 教員と図書館のつなぎ役の必要性
 - サブジェクト(リエゾン)
ライブラリアンの活用

■ 可視性・発進力の強化

- 外部サービスとの連携
- 学内ユーザーに対する利便性の提供



図を用いて研究活動へのアプローチを説明する、Susan Gibons氏、Suzanne Bell氏
(ロチェスター大学)

ミーニョ大学 (ポルトガル) サウサンプトン大学 (イギリス)



■ 目的

- 持続可能なリポジトリ構築のための工夫は？



Universidade do Minho

コンテンツ収集

(1) ミーニョ大学



- コンテンツ内容 4400件 (2006.2)
- 登録促進策(1)
 - Mandate Archiving Policy
 - 学長自ら義務化を提案
 - Financial Benefits
 - Archiving Policyと同時に学長が提案
 - 登録する文献のタイプや発表年により係数を加算→予算配分へ

コンテンツ収集

(1) ミーニョ大学



- 登録促進策(2)
- モチベーションアップ
 - アクセス統計
 - 「利用されていることを実感してもらう」
 - Full text/メタデータのDL数をアクセス発生国別・文献毎に集計
 - **Success Story** を与えることが大事
- 支援ツールによる登録作業軽減

Consultas	Downloads
109418	135907

Médias por documento

Docs	Consultas	Downloads
4132	26.5	32.9

Por país

País	Consultas	Downloads
Portugal	74649	74189
Brazil	19530	36402
United States	2283	3508
India	760	2330
United Kingdom	804	1508
Spain	1009	1292
N/A	1202	946
China	224	940
France	459	911
Germany	505	811
Canada	300	673
Italy	408	656
Mexico	432	630
Iran, Islamic Republic of	187	537
Mozambique	297	459

国別アクセス統計

コンテンツ収集

(2) サウサンプトン大学



- コンテンツ内容 13000件(2006.2)
- 登録促進策
 - 看板教授をプロモーションに動員
 - 大切なのはGood Exampleを示すこと
 - どのように使われているか(統計)の提示
- 支援ツールの開発
 - One Stop Archiving を模索中
 - Full Text → 部局サーバ
 - メタデータ → リポジトリへ
 - 狙いは → 学内全体で資源共有

ミーニョ&サウサンプトン わかったこと

- 大学としての目的・認識の共有
 - 大学にとってリポジトリとは
 - Visibilityの向上
 - 大学のアイデンティティの確立と向上
- 大学・教員にとってのメリットの明確化
 - 言葉や理念よりも感覚への働きかけ
 - アクセス統計を上手に活用
 - マスコミ・ミニコミを利用

シンガポール国立大学 南洋工科大学 (ともにシンガポール)



■ 目的

- アジアのリポジトリは怎么样了？
- 統合検索などの見せ方の工夫は？



シンガポール国立大学
セントラルライブラリー外観

シンガポールのリポジトリ



■ シンガポール国立大学

- School of Computing のデジタルリポジトリ(2000件)

■ 南洋工科大学

- 学内成果物を電子的に収集(23000件)
- Open Accessではない学内者のためのデータベース
 - 研究プロジェクト報告
 - 会議発表論文
 - 年報
 - 学長スピーチ
 - 講義録、試験問題
 - 学位論文

» 学位論文は図書館に提出される仕組み確立

- 雑誌論文は未登録

統合検索環境の提供

- シンガポール国立大学
 - ENCompass 導入(2003)
 - OPACを含む70のデータベースを提供
 - CJKには未対応
- 南洋工科大学
 - ENCompass導入予定(2005.10～作業中)
 - 約80のデータベースを提供予定

シンガポール国立大学 南洋工科大学 (ともにシンガポール) わかったこと



南洋工科大学キャンパス

- シンガポールでは、研究成果を電子的に収集しているが、学内利用に限り、Open Accessは少ない。
- 統合検索により検索の利便性を高めるサービスを行っている。

メリーランド大学 ジョージ・メイソン大学(ともにUS)

■ 目的

- コンテンツ収集の工夫は？
- そのためにライブラリアンはどんな活動を？



University of Maryland
(メリーランド州)



George Mason University
(ヴァージニア州)

コンテンツ収集



- メリーランド大学
 - 2005.8～リポジトリ運用
 - コンテンツ 3000件(2006.3)
 - 博士論文や報告書
 - 教員の論文 少
- ジョージ・メイソン大学
 - 2005.7～リポジトリ運用
 - コンテンツ 450件(2006.3)
 - 特殊コレクションやArchiveなど
 - 教員の論文 少

登録促進策と今後の計画



- メリーランド大学
 - 学部長へのメール、教員説明会
 - 退職予定教員の勧誘
- ジョージ・メイソン大学
 - 学部長へのメール、教員説明会
 - 学内会議、シンポジウムでの呼びかけ

メリーランド大学 ジョージ・メイソン大学(ともにUS) わかったこと

- コンテンツの収集には苦勞している
 - 義務化していない
 - 人手不足
 - 広報の難しさ
- サブジェクト、リエゾンライブラリアンの役割の重要性
 - リポジトリ担当とリエゾンライブラリアンが協力
 - リポジトリ推進の広報を展開
 - きめ細かな意見・要望にこたえる

Ⅱ. ワークショップの開催 海外の専門家を招いて



- 日米大学図書館オープンフォーラム
(2005.11)
 - マサチューセッツ大学アマーست校(US)
 - シャロン・ドマイヤー氏
- 機関リポジトリワークショップ(2006.5)
 - DARE プロジェクト(オランダ)
 - マーティン・フェイエン氏

日米大学図書館オープン・フォーラム サブジェクト・ライブラリアン



- アメリカの大学図書館における図書館員の地位と役割
 - 教員と共に専門分野の教育・資料収集を担当する＝サブジェクト・ライブラリアン
 - 教員と図書館の間を繋ぐ＝リエゾン・ライブラリアン



Sharon Domier氏を囲んで
のディスカッション

日米大学図書館オープン・フォーラム

サブジェクト・ライブラリアン

- リエゾン・ライブラリアンの役割
 - － 授業、リテラシー教育のサポート
 - － 蔵書構築のサポート
 - － リポジトリ推進のための教員との協力体制の確立

機関リポジトリワークショップ 研究成果ショウ・ケース



としての機関リポジトリ

- DAREプログラム
(オランダ)
 - 国家的機関リポジトリプロジェクト
- Cream of Science (科学の精華)
 - Top200科学者の研究成果ショウ・ケース



M.Feijen氏を迎えた講演と
ディスカッション

DARE (Digital Academic Repositories) Programme



■ Mission

- オランダにおける公的資金による研究のよりよいアクセスを実現すること

■ 概要

- 期間: 2002-2006.12
- SURF財団によるサポート
- オランダのすべての13大学と王立オランダ芸術科学アカデミー(KNAW)、オランダ科学研究機構(NOW)、国立図書館の連携

■ Project

- Cream of Science (オランダTOP200)
- Promise of Science (e-thesis)

Cream of Science



■ オランダ国内の207名の傑出した科学者の論文へのオープンアクセスを提供

- 15機関 参加
- 207名の科学者
- 42500件のメタデータ
- 28000件のフルテキスト論文
(60%のフルテキスト率)

■ Mission

- DAREプログラムを活性化させるための目玉プロジェクトのひとつ



Cream of Science
研究者紹介ページ

DAREとCream of Science



課題とこれから

- 著作権のハードルを越えるためのシンプルな方法の必要性
 - 出版者との協力体制
- DAREとCream of Scienceのビジネスモデルの確立
- DAREのヨーロッパ全体への展開
 - そのためにやるべきこと
 - 公的資金による研究成果に、出版後まもなくアクセスできるという保障の確立
 - 知識のvisibility, accessibilityを高め、知識を普及する相互利用可能なシステムの開発

わかったこと (1)

■ コンテンツの拡充

- プロモーション(広報)の重要性
 - 研究者との橋渡しとなるサブジェクト(リエゾン)ライブラリアンに注目
- アクセス統計の効果的活用
 - 研究者自身または大学のモチベーションと意識の高揚のために
- 研究者自身の意識の変革
 - 研究成果公開は当然の社会貢献であるという意識の変革
- 著作権問題とその解決策

わかったこと (2)

- 効果的見せ方、効果的発信
 - － 可視性の向上
 - リンクリゾルバ、統合検索を駆使すること
 - － 見せ方に工夫をすること
 - ショウ・ケースを作ること
 - ショウ・ケースが教員にとっても大学にとっても重要であることを認識させること
 - － 登録を容易にするツールの必要性

海外調査の成果 (1) 北海道大学 HUSCUP

アクセス統計の活用

HUSCUP
高頻度閲覧文献
の公開



研究成果ショウ・ケースの作成

HUSCUP
Researcher's
Page(公開予定)



海外調査の成果

(2) 千葉大学 CURATOR



可視性・発信力の強化

CURATOR
Scirus との連携
Scirusによる日本語検索の実現



アクセス統計の活用

CURATOR
アクセスカウンター表示



ご協力いただいた方々

- トロント大学、ロチェスター大学訪問
 - 阿藤品治夫氏(元千葉大学、現NII)
 - 鈴木雅子氏(北海道大学)
 - 小坂麻衣子氏(北海道大学)
- ミーニョ大学、サザンプトン大学訪問
 - 野田英明氏(元千葉大学、現国立歴史民俗博物館)
- シンガポール国立大学、南洋工科大学訪問
 - 高木和子氏(千葉大学ライブラリー・イノベーションセンター)
 - 中村澄子氏(千葉大学)
- メリーランド大学、ジョージメイソン大学、
オハイオ州立大学訪問
 - 金山亮子氏(千葉大学)
 - 武内八重子氏(千葉大学)

ありがとうございました。